

モ亦然リ、凡草木ニ雌雄アリ、雄ニハ無子、○中

略 中

土之生物、其成數在五、故草木皆五出、桃杏花有六出者必雙仁、皆能殺人、瑣代醉
造化無全功、物無全美、豐其花者薺其實、豐其實者薺其花、天地ノ物ヲ生ズル兩ナガラ全カラズ、梅
櫻、海棠、薔薇、山茶、牡丹、芍藥等ハ、花美シケレバ其實不可食、棣棠、水仙等ハ、花美クシテ實ナシ、又花
ノ千葉ナル者ハ實ナク、或ハ少シ、實ノ美キ者柿、栗、棗、瓜、橘柑等ハ花不美。

〔鋸屑譚〕鑿海集云、草木の花雖曰五色、獨無黑色、黑を水の色とす母道也、母は但陰育於中故不現也、
按蠶豆花のごとき、白黒相雜るといへども、其黒色黯々墨のごとし、古人此色を紫といふものは
甚非なり、唯此花此色をあらはす、いまだしらず、此他此色ある事を恨らくは不純色、雖然黑白相
半、尤分明則化工之妙、不可測識矣。

〔牛馬問〕藝州侯の醫官武島氏春碩曰、諸木真黒の花を不開、事いまだ諸書に見ず、人に問へども、
其説を不聞、此義如何、予祐登が曰、足下もしらず、人も又しらず、予が謙劣、なんぞ是を知ん、然れ
ども古老の話あり、青黃赤白黒の五色を以て、水火木金土の五行に配當するに、黒は水に屬し、四
季に當れば、冬の色也、諸木花を開くは、陽氣發顯なれば、極陰閉藏の冬のいろを發く事なき、自然
の至理なり、扱又會津に、うすすみ櫻有といへども、變にして常理にあらず、又五色の蓮華の説の
ごときも、常の事にあらず、

〔草木六部耕種法十一〕木類ノ花ハ古來栽覽シテ樂ムガ爲ニ作ルコトニ限ルト雖ドモ、杜鵑花バ
其味酸美ニシテ、酒ノ肴ト爲ルニ宜シ又棣棠梅櫻等ノ花ハ飯ヲ和シテ鮓ト作ベシ、味頗ル美ナ
リ、仙家ニ此ヲ玉結ト名ク、又榴花ハ染料ニ用ヒ、芫花、玫瑰花、薔薇花、柚花、白桃花等ハ皆藥物ト爲
ル者ナリ、

〔地錦抄附錄三〕當世實生にてかはり花出來るは珍花なり、古花といへども、好花はいつまでも上